



住まい新聞

30歳で住まいを購入する場合、

今選ぼうとしている家は70年先まで住み続けられる家ですか？

家選びで本当に大事なものは建てたあと！

住み始めてからのことが考えられている家かどうかのポイントです。

「新築建売住宅」・「ローコスト住宅」の
メリット・デメリット



メリット

購入時

デメリット

メリットだらけに見える
「新築建売住宅」「ローコスト住宅」ですが…

メリット

- ☑すべてが新品
- ☑コストが低く手に届きやすい、ローン返済の負担が少ない
- ☑新築建売住宅の場合、完成された実物を見ることができ、即入居可能、オプション等の追加費用が発生しない、打ち合わせ等の手間が省ける

ココが落とし穴

なぜコストを抑えた住宅が建てれると

思いますか。それは、住んでからは目に見えなくなる

構造体・断熱材・施工の質や換気の仕方・湿度管理など、長く住む上で一番大事な部分が重視されていないからです。重視されていないとどうなるのか…。

35年先（30歳でローンを組まれた方なら65歳）の年齢を考え、今、『高い性能を維持できる家』を選んでおけば、その年齢でリスクが高くなるヒートショック、体温低下による病気や認知症を防ぎ、健康寿命を延ばすことができます。

35年経った時、もう一度建て替えできるだけの資金のある方はいいですが、建て替えできないという方は、30年先、50年先を考えた家づくりをされることをお勧めいたします。

わたしたちは地元工務店です。高性能住宅への疑問・質問等、ご遠慮なく何でもお尋ねください。

賢い人は数十年先を考え、「新築建売住宅」や「ローコスト住宅」のように、“住み始めてから分かるデメリットが多い家”ではなくデメリットのない高性能住宅を選んでいきます。

デメリット

- ☑結露、カビ、ダニによる、子どものアレルギー疾患
- ☑断熱材が水分を含むこと（壁体内結露）で断熱性能が落ちる
- ☑壁体内結露（夏にも壁の中で起こる）による躯体の老朽化
- ☑結露が乾く性能がないために起こるカビ被害
- ☑家に対しての暑い・寒いの生活ストレス
- ☑思っていた以上に高い光熱費
- ☑資産価値の減少
- 65歳からはさらに
- ☑夏暑い、冬寒いなどの生活ストレス増
- ☑寒さによる免疫力の低下で病気になるリスク大
- ☑家の中の暑さによる熱中症、脳卒中のリスク大
- ☑冬の家の中の寒暖差によるヒートショックのリスク大
- ☑耐震、気密、断熱の劣化の可能性大

住み始めてから
65歳まで

デメリット

65歳から
さらに大きく

デメリット



大きな買い物です。老後も視野に入れ、住まいの健康度にも目を向けた家づくりをしませんか？

思ってもみなかったデメリットにより、長期間性能を維持できず、70年先まで「家」や「人」が健康で暮らすことができません。



設計・施工

高気密・高断熱住宅「ファースの家」専門店 健康寿命をのばす家 性能を3世代担保できる家

開原工務店株式会社 ☎084-971-8811

〒720-0834 広島県福山市明王台3丁目12番7-201号

建設業許可／広島県知事（般-28）第33859号 気密測定技能従事事務所 登録番号1530
株式会社ハウスジーン住宅瑕疵担保保険登録企業 ZEH登録ビルダー 令和元年度地域型住宅グリーン化事業採択

facebook で随時報告！

詳しくはWEBでチェック！

開原工務店 検索

